

# Cente Technical Information

発行番号	001-0062	Rev	第2版	発行日	2020/02/17
題名	リンクダウン状態でTCP接続APIを実行し、その後リンクアップしても接続できない				
情報分類	障害情報				
適用製品	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Cente TCP/IPv4 Ver. 1.00 - Ver. 1.35</li><li>・ Cente TCP/IPv4 SNMPv2 Ver. 1.00 - Ver. 2.22</li><li>・ Cente TCP/IPv4 SNMPv3 Ver. 1.00 - Ver. 2.22</li><li>・ Cente IPv6 Ver. 1.00 - Ver. 1.45</li><li>・ Cente IPv6 SNMPv2 Ver. 1.00 - Ver. 2.22</li><li>・ Cente IPv6 SNMPv3 Ver. 1.00 - Ver. 2.22</li></ul>				
関連資料	なし				
<p><b>【該当するユーザ環境】</b> ネットワークがリンクダウン状態で、TCP接続API (tcp_con_cep(), ctconnect()) を実行し、TCP再送中にリンクアップする場合に、該当します。CenteパッケージのFTPC、HTTPCなど、TCP接続APIを使用するクライアントアプリケーションも該当します。</p> <p><b>【障害内容】</b> リンクダウン状態でTCP接続APIを呼び出し、その後リンクアップすると、TCP SYNを再送します。このとき、送信元IPアドレスが0.0.0.0という正しくないパケットを送信するか、再送をしないか、どちらかの動作となります。どちらの場合も、TCP送信APIは、タイムアウト後にエラーでリターンし、接続できません。なお、リンクアップした後にTCP接続APIを再度実行すると、正しく動作します。</p> <p><b>【発生理由】</b> リンクダウン状態では、プロトコルスタック内部で、自IPアドレスを0.0.0.0としており、TCP接続APIを実行すると、この0.0.0.0を保持します。リンクアップ後のTCP SYN再送で、送信元IPアドレス0.0.0.0のパケットを送信していました。自IPアドレスが正しくないため、TCP接続はできず、タイムアウトでエラーし、接続できません。 Cente001-0060「まれに送信元が「0.0.0.0」のIPパケットを送信する現象について」を修正済みの環境では、送信元IPアドレスが0.0.0.0の不正なIPパケットは破棄し、送信はされません。この場合も、TCP接続はできず、タイムアウトでエラーし、接続できません。</p> <p><b>【回避方法】</b> 以下のいずれかの方法により回避できます。 1. アプリケーションでリンクダウン状態を判断し、TCP接続APIを実行しないようにする。 2. ミドルウェアのソースコードを修正し、正しい送信元IPアドレスを使用するようにする。 詳細については、営業担当またはsupport@cente.jpまでお問い合わせください。</p> <p>以上。</p>					